狩野川に学ぶ
～防災・河川環境教育実践ガイド～
【函南町版】

◆単元：「くらしを守る」

◆小単元:「風水害からくらしを守る」

発行:平成30年5月29日
編集:狩野川台風の記憶をつなぐ会（事務局:国土交通省中部地方整備局 沼津河川国道事務所）

教師用学習指導・発問計画

平成２９年度版

小学４年生社会

単元「くらしを守る」

小単元「風水害からくらしを守る」

学習指導・発問計画

～わたしたちの地域を流れる狩野川を題材として～

（　函南町版　）

小単元「風水害からくらしを守る」学習指導・発問計画
～　わたしたちの地域を流れる狩野川を題材として　～

目　　次

１. はじめに ･･1

２. 小単元の指導・評価計画

・目標･･1

・評価基準･･2

・知識の構造図･･3

・指導計画･･4

３. 発問計画・学習教材

１時限目「かの川と水がい」 ･･････････････････････････････5

２時限目「かの川の水がいをふせぐ工夫」･････････････････････7

３時限目「水がいから地いきを守る」･････････････････････････9

４時限目「私たちにもできる水がいへのそなえ」･･･････････････11

1　はじめに

本学習教材は、静岡県田方地区の小学校で採択されている教科書（東京書籍）のうち、小学校４年生の社会科で学習する小単元「火事からくらしを守る」の発展として「風水害からくらしを守る」とし、地域を流れる「狩野川」を題材として作成しています。

小単元「火事からくらしを守る」では、火事から地域を守るためにどのような人たちが取り組んでいるかを学びます。本教材では、発展として「風水害」を題材とすることから、洪水から地域を守るためにどのような人たちが取り組んでいるかを学べる内容となっています。また、この内容に加え、狩野川台風や近年発生した大規模水害から自分の命を守るためになにができるかについても学習できる内容となっています。

【 学習教材を作成する上で配慮する点 】

・４年生までに習わない漢字は用いない。
　やむなく漢字を使用する場合は、漢字にルビをふる。
・授業の進め方は、子どもたちに伝わりやすいよう、イラストや図等を用いることを念頭に置く。

【 学習教材を活用頂く上で配慮する点 】

・教材数が多いため、授業で活用頂く教材は教員に選んで頂く。

2　小単元の指導・評価計画

【 目標 】

※小単元「火事からくらしを守る」の目標を参考に、本小単元の目標を設定した。

■風水害から地域の人々の安全を守る活動に関心をもち、消防団などの関係機関が地域の人々と協力して風水害の防止に努めていることや、関係機関が相互に連携して、緊急に対処する体制をとっていることなど、風水害から人々の安全を守るための関係機関の働きとそこに従事している人々や地域の人々の工夫や努力を理解するとともに、地域社会の一員として協力できることに取り組もうとする。

■地域社会において風水害から地域の人々の安全を守るための諸活動の様子から学習問題を見いだし、資料を活用して具体的に調べたことをワークシートなどにまとめるとともに、人々の安全を守るための関係機関の働きとそこに従事している人々や地域の人々の工夫や努力について考えたことを適切に表現する。

【 評価基準 】

※下記の青字は、水害を伝える為に追加した内容を示す。

〇社会的事象への関心・意欲・態度

①地域社会における風水害から人々の安全を守る工夫や努力に関心をもち、意欲的に調べている。

②地域社会の一員として人々の安全を守るための活動に協力しようとしている。

③狩野川の水害について、自分の周りでも起こるかもしれない災害として関心をもって発言しようとしている。

〇社会的な思考・判断・表現

①地域社会における風水害から人々の安全を守る工夫や努力について、学習問題や予想、学習計画を考え、表現している。

②安全を守るための関係機関の働きや地域の人々の工夫や努力を地域の人々の生活と関連づけて考え、適切に表現している。

〇観察・資料活用の技能

①観点にもとづいて、資料を活用して、地域社会における風水害の防止のための諸活動の様子について必要な情報を集め、読み取っている。

②調べたことをワークシートなどにまとめている。

〇社会的事象についての知識・理解

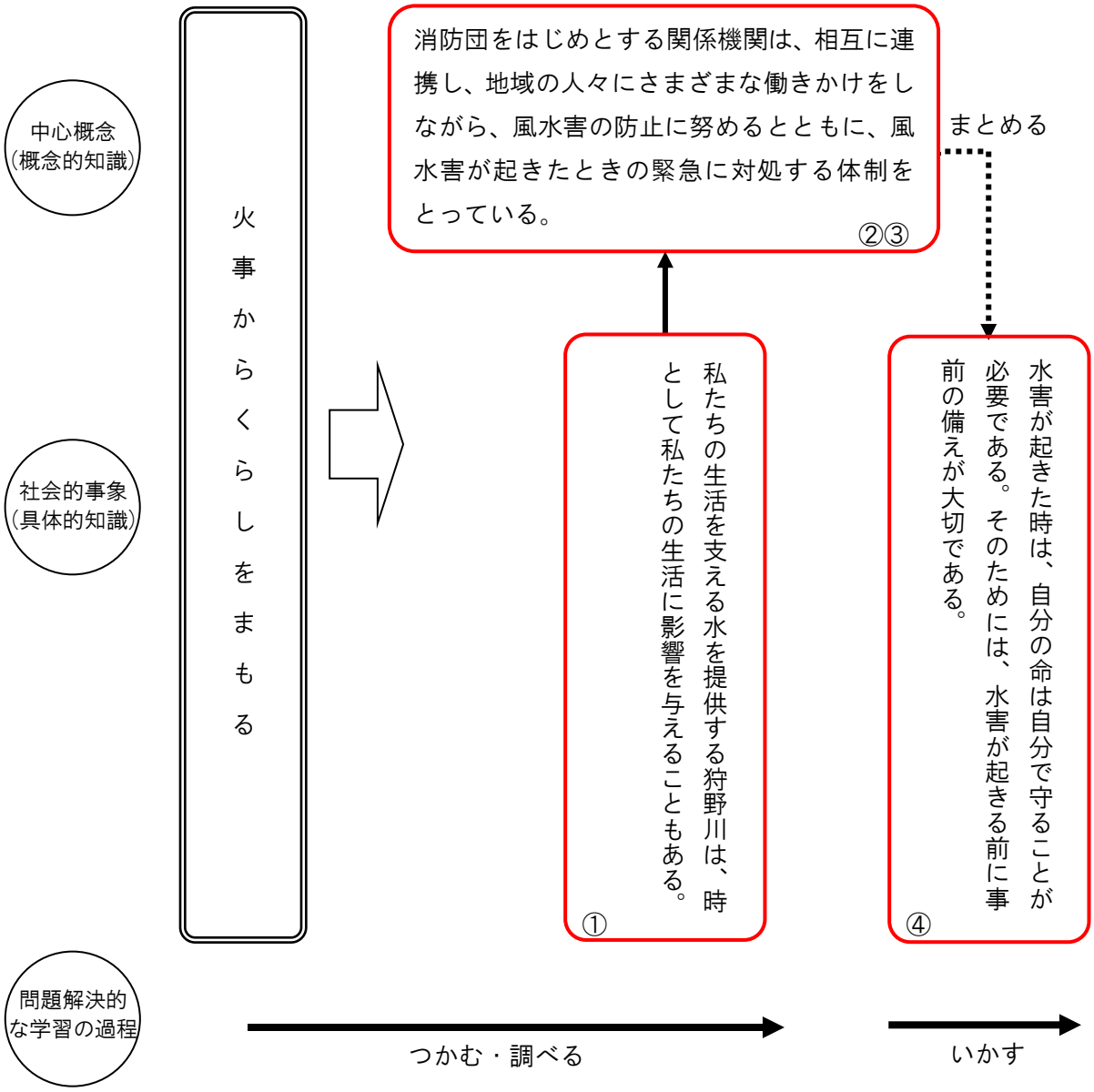
①関係機関は、地域の人々と協力して風水害の防止に努めていることや、関係の諸機関が相互に連携して、緊急に対処する体制をとっていることを理解している。

②人々の安全を守るための関係機関の働きと、そこに従事している人々や地域の人々の工夫や努力を理解している。

【 知識の構造図 】

小単元「風水害からくらしを守る」の知識の構造図を以下に示す。このうち、函南町立西小学校で実施する授業内容を赤枠で示す。

知 識 の 構 造 図



【 指導計画 】

本教材で実施する試行授業の指導計画を下記に示す。

		各時限の タイトル	本時のねらい	評価計画	評価のふりわけ
水害に関する部分	つかむ・調べる	1. かの川と水がい	大雨によって川の水が多くなると川の水が溢れる可能性があることを伝え、川の水が溢れると私たちの生活に影響をあたえることに気づかせる。 また、昔、狩野川では、狩野川台風により大きな被害が出たことを伝えることで、自分たちの身近な場所でも狩野川台風のような被害が起こりうることを気づかせる。	【関・意・態】 川の水が溢れた時の私たちの生活に与える影響を調べようとしている。	ワークシートおよび単元テストの設問【２】の回答結果より、下記の観点から成績を評価する。 ★ワークシート ・授業の内容を踏まえ、川の水が溢れると私たちの生活に影響を与える旨の記述がある。 （評価に繋がるキーワード例：家が水浸しになる、移動できない、家族と連絡がとれない 等） →【関・意・態】に該当 ★単元テスト ・増水時のイラストより、川の水が溢れると私たちの生活に与える影響について正しく回答できている。 →【知・理】に該当
	まとめる	2. かの川の水がいをふせぐ工夫	前の授業で習った狩野川台風などのような水害を起こさないために、狩野川では、様々な取り組み（狩野川放水路や堤防、排水機場、砂防ダムなどの整備）をしていることを理解する。	【知・理】 水害から私たちの生活を守るための取り組みについて理解している。	ワークシートおよび単元テストの設問【３】【４】の回答結果より、下記の観点から成績を評価する。 ★ワークシート ・授業の内容を踏まえ、水害を防ぐ取り組みに関する記述がある。 （評価に繋がるキーワード例：狩野川放水路、排水機場、堤防、ポンプ車による排水 等） →【知・理】に該当 ★単元テスト ・狩野川で起きた水害および水害を防ぐ取り組みについての内容を正しく回答出来ている。 →【知・理】に該当
		3. 水がいから地域を守る	水害から地域を守るために、様々な立場の人が取り組みをしていること、消防団は火事だけではなく水害から私たちの生活を守るために活動をしていること、どのような活動をしているのかを資料を通して学ぶ。【共助を学ぶ】	【技】 水害からくらしを守るために、消防団がどのような働きをしているかを資料から読み取っている。	ワークシートおよび単元テストの設問【３】の回答結果より、下記の観点から成績を評価する。 ★ワークシート ・授業の内容を踏まえ、水害時の消防団の取り組み内容に関する記述がある。 （評価に繋がるキーワード例：土のう積み、パトロール、放水訓練 等） →【知・理】に該当 ★単元テスト ・消防団の話から、水害時の消防団の活動内容を読み取れている。→【技】に該当 ・水害時の消防団の取り組み内容を正しく回答出来ている。 →【知・理】に該当
	いかす	4. 私たちにもできる水がいへのそなえ	大雨が降って「避難勧告」が出たら、ただちに避難を開始すること、どこから情報を得るかを学ぶ。水害から自分の命を守るために、ハザードマップを使って避難する場所を知ると共に、避難の行動を理解する。【自助を学ぶ】	【思・判・表】 水害から自分の命を守るための行動にはどのような行動があるかを考え、表現している。	ワークシートおよび単元テストの設問【５】の回答結果より、下記の観点から成績を評価する。 ★ワークシート ・授業の内容を踏まえ、自分や家族の命を守るために水害に備えた行動に関する記述がある。 （評価に繋がるキーワード例：避難する、情報を確認する、ハザードマップを確認する 等） →【思・判・表】に該当 ★単元テスト ・水害が起きそうな時に、自分の命を守るための避難行動を考え、判断できている。 →【思・判・表】に該当

参考資料：文科省による評価の観点
Ⅰ 関・意・態：社会的事象に関心を持ち、それを意欲的に調べ、社会の一員として自覚をもってよりよい社会を考えようとする。
Ⅱ 思・判・表：社会的事象から学習問題を見いだして追求し、社会的事象の意味について思考・判断したことを適切に表現している。
Ⅲ 技能　　：社会的事象を的確に観察、調査したり、各種の資料を効果的に活用したりして、必要な情報をまとめている。
Ⅳ 知・理　：社会的事象の様子や動き、特色及び相互の関係を具体的に理解している。
（文部科学省、「各教科等・各学年等の評価の観点及びその趣旨」）

◎導入における注意点
大雨がふると・・・
・川が増水し、水害の危険性が高まる
・水害を予見して避難行動をする必要がある
・生命の危険がある
※水害については「授業で使える知恵袋」を参照

■避難については後の時限で詳しく触れます。この時限では、「大雨」や「水害」についての話題をほりさげてください。

◎展開における注意点①
川の水があふれる・・・
・水害が発生する
・生命の危険がある
※水害、洪水については「授業で使える知恵袋」を参照

■水害と洪水は意味が異なる。混同しないように伝える。また水害＝堤防の破堤とは限らない（イラストはあくまでも一例）
誤った認識を持たせないように注意する。

◎展開における注意点②
狩野川台風
・狩野川流域に甚大な被害をもたらしたことを伝える
・近年、狩野川流域では、狩野川台風と同等の台風の襲来は記録されていないが、全国では毎年のように台風による被害が発生しており、今後、狩野川流域に同様の被害をもたらすような台風（水害）が発生するかもしれないことを伝える
※狩野川台風については「授業で使える知恵袋」を参照

■かならずしも台風＝水害ではない。水害は大雨でも発生することがあるので、認識を間違わないように伝える必要がある。

◎終末における注意点
①水害について正しく理解できたかを確認する。
②狩野川台風の状況を正しく理解し、被害を忘れることなく、今後の防災について役立てることが身に付いたか確認する

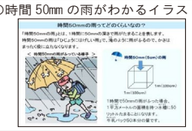
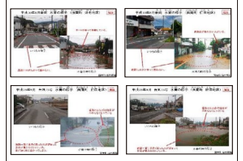
■ワークシートにて、内容を習熟度合いをチェックする。

3　発問計画・学習教材

1 時限目　かの川と水がい

本時のねらい（目標）
大雨によって川の水が多くなると川の水が溢れる可能性があることを伝え、川の水が溢れると私たちの生活に影響をあたえることに気づかせる。また、昔、狩野川では、狩野川台風により大きな被害が出たことを伝えることで、自分たちの身近な場所でも狩野川台風のような被害が起こりうることを気づかせる。

※指導計画の［　］は、予想される児童の発言（児童に伝えたい発言）を示す。

流れ	発問計画	指導上のポイント	教材解説（◎は補助教材）
導入 （5 分）	1. 平常時には私たちの生活に恩恵をもたらす川が、大雨が降るとどうなるのかを考える。 発問： ・大雨が降ると、川はどうなるでしょう？ ・雨がたくさん降ると川の水が増える。 ・川の水が増えると、川から水があふれるかもしれない。 ・川の水があふれると、私たちの生活はどうなるのか？	・平常時と増水時、川の水があふれた様子がわかる資料を見せ、大雨が降って川の水が増えるとどうなるかを考えさせる。	○平常時と増水時の川の様子がわかる資料（仁田橋） 平常時と増水時で川の様子が異なることを児童に気づかせる。 ○時間 50mm の雨がわかるイラスト 
展開 （30 分）	2. 川の水が溢れると、私たちの生活にどのような影響があるのかを話し合う。 主発問： 川から水があふれると私たちの生活はどうなるでしょう？ ・川の水が溢れると、川の水が家の中に入ってくる。家の中が水びたしになる。 ・川の水が溢れなくても、土地が低い地域では、水に浸かることがある。 ・家の中が水びたしになる以外には、どんな影響があるのか？ ・住まい 例：家が水浸しで生活ができないから、避難所へ避難する。 ・移動 例：道路に水がたまっているため、移動できない。船に乗って移動する。	・堤防が決壊して川から水が溢れるイラストを見せて、川の水が溢れると私たちの生活に影響を与えることを気づかせる。 ・児童の意見を引き出すために、「住まい」「食事」「移動」「情報」の観点から、生活に与える影響を発言させる。	○川から水が溢れるイラスト いつもの川　　大雨が降った時の川 ◎函南町の浸水状況（写真） ※活用頂く教材は、選択して頂く。  私たちの身近な地域でも土地が低い地域では浸水して、私たち自身や家等が水に浸かることに気づかせる。
	・食事 例：移動できず、食料を買いに行けない。 ・情報 例：電話が使えず、親と連絡がとれない。 ・大雨により川の水が増えたりすることで、私たちの生活に影響があることがわかった。また、水によってひき起こされる災害を水害と呼ぶことがわかった。 ・狩野川では、大きな水害が起きたことがあるのだろうか？		○水害による生活への影響（ｲﾗｽﾄ）
	3. 狩野川では、昔、大きな水害があったことを伝えた後、狩野川台風の映像を見て、どのような被害があったのかを学ぶ。 発問： 狩野川台風とはどのような水害だったでしょう？ ・狩野川では、昔、狩野川台風という大きな水害が起きた。 ・狩野川台風では、超大型の台風の影響で、大量の雨が天城山に降った。 ・大量の雨が土石流となって川に流れ込み、伊豆市などの川の上流で大きな被害が出た。 ・狩野川台風でも、船を使わないと移動ができない、お金が手元にないなど、生活に影響があったことがわかった。 ・狩野川台風のような水害は、今も起こるかもしれない。	・狩野川台風の映像を見て、狩野川台風がなぜ起きたのか、どのような被害があったのかを学ぶ。 ・「狩野川台風の記憶」映像より、経験者の話を聞いて、水害から学んだ教訓も学ぶ。また、狩野川台風のような水害は、今も起こるかもしれないことを学ぶ。	○狩野川台風の映像＜4 分以内＞ 狩野川台風がどのような水害であったかを児童に伝える。 ○来光川の氾濫（映像） ○狩野川台風を経験した保健師さんのインタビュー映像
終末 （10 分）	4. 学習内容の振り返り、授業のまとめ。 【授業のまとめ】 ・大雨が降ると川の水が溢れる可能性がある。 ・川の水が溢れると、家の中に水が入ってきて生活ができない、道路に水がたまって買い物に行けない等といった生活に影響を与える。 ・水によって引き起こされる災害を「水害」と呼ぶ。 ・昔、狩野川台風による大きな水害が起きた。 ・狩野川台風のような水害は、今も起こるかもしれない。	・学習でわかったことをワークシートに記入させる。 ・児童からでた意見より、授業の内容をまとめる。 （・時間が余るようならば、「狩野川台風の経験を活かす（映像）」を流す。）	○ワークシート ◎「狩野川台風の経験を活かす」（映像）　＜1 分程度＞ 狩野川台風の内容を深めるための施設を紹介する。

板書例

授業で使える知恵袋

◎出水と洪水
出水とは、台風や前線による大雨や融雪により、大量の水が流出（川に水が集まること）して河川の水位や流量が増大することをいう。洪水とは、大雨や融雪により河川の水位や流量が異常※に増えることをいう。※一般には、計画を超えた水位や流量に増えた場合を指す。

◎外水はん濫と内水はん濫
洪水により、川の水が堤防などを超えて溢れたり（溢水）、堤防が壊れたり（破堤、決壊）することにより、堤防の内側（町や農地がある側）に水があふれることを外水はん濫という。内水はん濫は、河川の水位が高くて、堤防の内側（町や農地がある側）に降った雨水が河川に排水できずに雨水が氾濫することをいう。

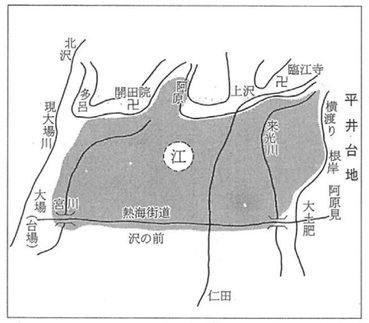
◎ 水害とは
水害は、豪雨や高潮などにより、氾濫が起きて、人間活動が被害を受けることをいう。我が国においては、国土面積の約１割にすぎない洪水氾濫区域に、人口の５割、資産の４分の３が集中している。そのため、ひとたび洪水が発生すれば、被害は深刻なものとなる。

◎狩野川台風
狩野川台風 昭和 33 年（1958）9 月 26 日、死者・行方不明 853 名という甚大な被害を狩野川流域に与えた台風 22 号は、後に気象庁が「狩野川台風」と命名し、被害の大きな台風を地名で表現する第一号となった。狩野川台風で注目されることは、強雨域が長時間にわたってほとんど動かず、狩野川の上流域に大量の雨をもたらしたため、被害が狩野川流域を中心とした狭い地域に集中していること。また中流域では、上流から流れてきた土石や流木が修善寺橋に引っかかって流れを堰き止め、一時的にダムのようになり、この修善寺橋が倒壊することで、それまでに溜まった大量の水が土砂と共に一気に流れ出し、下流域に大きな被害を及ぼした。

◎近年の豪雨による被害の一例「平成 27 年 9 月関東・東北豪雨」
台風や前線の影響で、関東・東北地方では 9 月 9 日～ 10 日にかけて記録的な大雨を記録した。なかでも市内を流れる鬼怒川が氾濫した茨城県常総市では、多くの家屋が流出、死者 2 人・負傷者 40 人以上、全半壊家屋は 5,000 棟以上と甚大な被害を及ぼした。常総市役所など、多くの公共機関にも浸水等の被害が及んだ。
救助者数は 4,258 人そのうち 1,339 人がヘリコプター（自衛隊・海上保安庁・警察・消防）によって救助された。またライフラインも大きな被害を受け、復旧までに多くの時間を費やした。

〇9 月 11 日時点での常総市のライフラインの状況
電気：停電（約 11,200 世帯）・水道：断水（約 11,800 世帯）・電話：不通（約 5,000 回線）
道路：国道 294、354 号線及び主要幹線通行止め
鉄道：関東鉄道常総線全線運休　など

◎「江尻の渡」考
狩野川が大雨で渡船が転覆する程の流れは、大雨で水が溢れるためには大場川が大場の東側を流れていれば可能になる。
右図を参考に、ここに大きな沼（江）があった。その北から流れ込む沢、大場川を北沢、上から流れ込む川（来光川）を上沢とすれば水量は多くなる。江のあった証として周囲の地名をみると、赤王の開田院がある。江の岸から開田していった名残ではないだろうか。
（出典：函南町史　下巻）



指導者用資料　狩野川の水害を防ぐ工夫

◎導入における注意点
最近、狩野川で大きな水害が発生していない‥
・内水氾濫は発生している
・既に整備している狩野川放水路や堤防、砂防堰堤などの効果が出ている
・狩野川台風の規模の豪雨が発生していないなど、いくつかの理由がある
※狩野川放水路については「授業で使える知恵袋」を参照

■避難については後の時限で詳しく触れます。この時限では、「大雨」や「水害」についての話題をほりさげてください。

◎展開における注意点①
水害を防ぐ取り組み・・・
ハード整備
・狩野川放水路
・堤防
・砂防堰堤（砂防ダム）
・排水機場
ソフト対策
・河川パトロール
・各種訓練

◎展開における注意点②
水害を防ぐ取り組み・・・
・狩野川流域では、多くの職種の人々が水害をふせぐため（地域を守るため）に従事していることを伝える。
・近年、狩野川流域では、狩野川台風と同等の台風の襲来は記録されていないが、全国では毎年のように台風による被害が発生しており、今後、狩野川流域に同様の被害をもたらすような台風（水害）が発生するかもしれないことを伝える（前時と重複）

※水害をふせぐ取り組みについては「授業で使える知恵袋」を参照

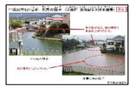
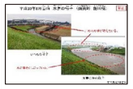
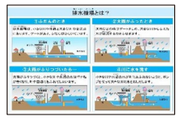
■次の授業で「避難」等について詳しく学習する

◎終末における注意点
①近年、大きな水害が発生していない理由について理解できたかを確認する。
②水害をふせぐ工夫を正しく理解できたか確認する
③大雨が降った場合にどのような情報が流れるか理解できたか確認する

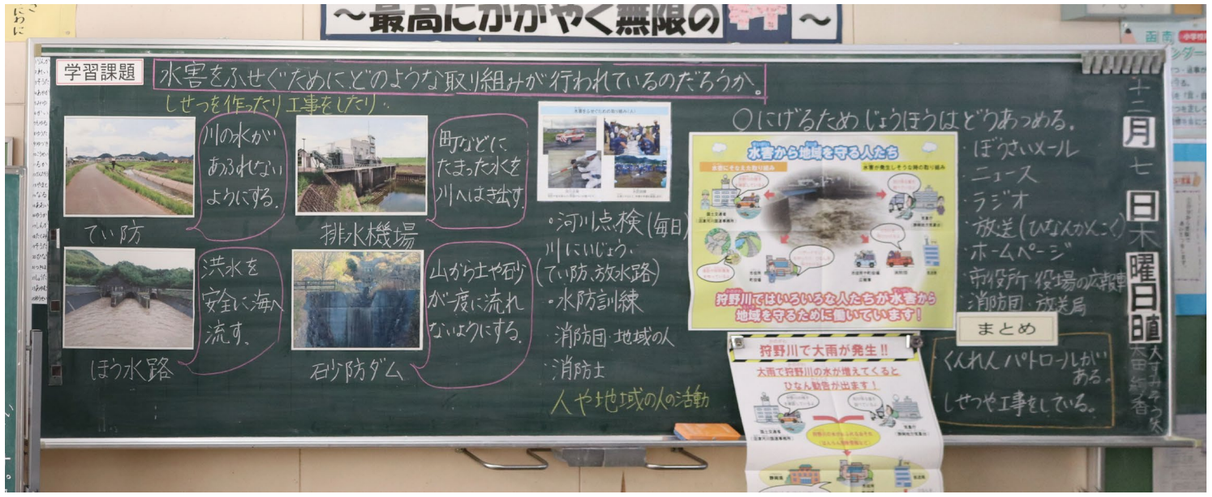
■ワークシートにて、内容を習熟度合いをチェックする。

2時限目　かの川の水がいをふせぐ工夫

本時のねらい（目標）
前の授業で習った狩野川台風などのような水害を起こさないために、狩野川では、様々な取り組み（狩野川放水路や堤防、排水機場、砂防ダムなどの整備）をしていることを理解する。
※指導計画の［　］は、予想される児童の発言（児童に伝えたい発言）を示す。

流れ	発問計画	指導上のポイント	教材解説（◎は補助教材）
導入（5分）	1. 前の授業で習った狩野川台風を思い出し、また大場川の氾濫の写真を見て、狩野川台風などのような大きな水害が起きていないのはなぜかを問いかける。 発問： 最近、狩野川や大場川で大きな水害が起きていないのはなぜでしょう？ ［川の水を溢れないようにしている。 ・川の水の量を調整している。 ・どんなことをして、狩野川で大きな水害を起こさないようにしているのか？］	・狩野川台風や大場川の氾濫の写真を見せ、その後、なぜ、大きな水害が起きていないかを考えさせる。	○狩野川台風時の生活への影響写真 ○大場川が氾濫した時と平常時（写真）  
展開（30分）	2. 映像を見て、水害を防ぐためにどのような取り組みが行われているかを話し合う。 主発問： 水害を防ぐためには、どのような取り組みがおこなわれているでしょう？ 【工事による取り組み】 ○狩野川放水路 ・伊豆の国市の堰之上で分流し、沼津市口野から江浦湾にそそぐ約３ｋｍの人工水路。 ・大雨などで川の水が増えた時に分流地点のゲートを開放することにより、１秒間に最大２，000m3/s（25mプール６杯分）の流量を流し、狩野川下流に多くの水が流れ込むことを防ぐ。 ○堤防 ・川の水が増えた時に水が川の外にあふれて流れ出すことを防ぐため、川に沿って土を高く盛ることで安全に川の水が流れるようにする。	・映像を見せて、水害を防ぐための工夫・取り組みについて考えさせる。 ・発言が出ない場合は、「水害を防ぐための取り組み資料」を見せて、誘導する。	○水害対策がわかる映像 ＜1分 30 秒程度＞ 水害が起こるメカニズムと水害を防ぐためのハード整備を学ぶ。 ◎水害を防ぐための取り組み資料
	【工事による取り組み】 ○砂防堰堤（砂防ダム） ・普段は川の水を少しずつ流しているが、大雨が降って土砂が流れてきたときに土砂を溜めて土石流を防ぐ。その後、溜まった土砂は川の水とともに少しずつ流していく。 ○排水機場 ・排水機場は、大きな川と支川・水路の合流点に設置されている。 ・大雨などで大きな川の水が増えた時、支川や水路に水が逆流することを防ぐためゲートを閉める。 ・そのまま雨が降り続くと支川や水路の水が町にあふれてしまうため、ポンプを使って大きな川に水を強制的に押し出す。		○狩野川放水路とは ○排水機場とは 
終末（10分）	4. 学習内容の振り返り、授業のまとめ。 【授業のまとめ】 ・狩野川台風のような水害を起こさないために、狩野川では様々な取り組み（狩野川放水路や堤防を作ったり、水害に備えた訓練等）を行っている。	・学習でわかったことをワークシートに記入させる。 ・児童からでた意見より、授業の内容をまとめる。	○ワークシート

板書例



授業で使える知恵袋

◎狩野川放水路とは
狩野川放水路は、伊豆長岡町の堰之上、狩野川資料館のすぐ横から狩野川を分流し、沼津市口野から江浦湾にそそぐ約３ｋｍの人口水路。途中に２箇所のトンネル区間を有し、全国の放水路の中でも珍しい構造となっている。狩野川流域の水害を防止する目的で昭和２６年の着工以来、１５年の歳月と今の金額に直すと約３００億円の巨費を投じて昭和４０年に完成した。分流地点のゲートを開放することにより、最大で１秒に２０００ｔの水を流すことができる。これは、25mプール６個分の水を流すことができ、狩野川の洪水防止の要と言える。

◎狩野川の河川整備状況
狩野川では、５０年に１回規模の出水が発生した場合に、安全に流れるように河川整備を実施中（整備中）。よって、狩野川台風規模の大雨となった場合には氾濫等が発生する可能性がある。また近年では想定を越える大雨もあり、河川整備が完了しても水害が発生する場合がありえる。（堤防等があるからと言って安心してはならない事を児童には伝える必要がある）

◎水害への備え
狩野川（国交省管理区間）ではほぼ毎日､河川パトロールを実施。箇所で見ると､概ね週２回実施。また国土交通省､自治体､消防、警察等が合同による大規模訓練や、各団体単独の訓練等を実施し、水害に備えている。

◎ハード対策とソフト対策
ハード対策とは堤防等の構造物による河川防災の対策。狩野川では狩野川放水路や排水機場、砂防堰堤（砂防ダム）などがハード対策となる。川底を深くしたり（河道掘削）、川幅を広げることもハード対策の一環。
対してソフト対策は、ハザードマップの作成や防災訓練、防災教育などが挙げられる。災害発生時の体制作り（水防団）などもソフト対策の一環であり、ハード対策とソフト対策は地域防災の両輪を成す。

◎導入における注意点
消防団について・・・
・消防署と消防団を混同しないようにする

※消防団については「授業で使える知恵袋」を参照

◎展開における注意点①
避難行動・・・
・消防団への理解を深める
・自分たちの身近にも消防団があることを伝える　※函南町の消防団については「授業で使える知恵袋」を参照
・土のう袋は実際に砂等を入れ（5 割程度入れる）、重量などを体感させる。複数用意できる場合は、教室で積み上げてみるなど工夫するとより体験につながる

◎展開における注意点②
消防団について
・消防団は水害（水防災）にも関わっていることを伝える
・消防団は地域を守っているということを伝える。
・消防団は現在、構成員が少なくなっていることを伝える

③◎終末における注意点
①消防団について正しく理解できたか確認する。
②消防団が水害（水防災）にも関わっていることが理解出来たか確認する

■ワークシートにて、内容を習熟度合いをチェックする。

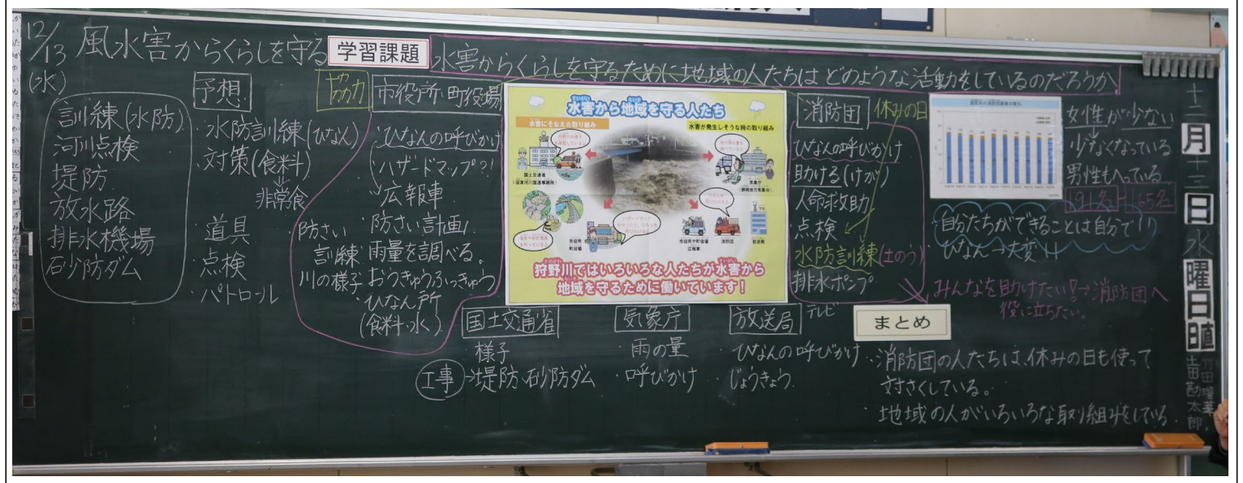
3時限目　水がいから地いきを守る

本時のねらい（目標）
水害から地域を守るために、様々な立場の人が取り組みをしていること、消防団は火事だけではなく水害から私たちの生活を守るために活動をしていること、どのような活動をしているのかを資料を通して学ぶ。【共助を学ぶ】

※指導計画の［　］は、予想される児童の発言（児童に伝えたい発言）を示す。

流れ	発問計画	指導上のポイント	教材解説（◎は補助教材）
導入 (10 分)	1. 水害から地域を守るために様々な人が取り組みを行っていることを伝える。 ［【人の取り組み】 ・川や橋などに異常がないか、パトロールしている。 ・水害に備えて、消防署や消防団、役所などが一緒になって水防訓練をしている。 ・水害から地域を守るために、様々な取り組みをしていることがわかった。 ・もし、狩野川台風規模の雨が降ったら、私たちはどうしたら良いのだろう？］		◎水害から地域を守るために一生懸命働く人々の図 水害を防ぐためのハード・ソフト対策の取り組みを伝える。 ○自治体職員へのインタビュー映像 <1 分程度> 自治体の防災の取り組みや水害時の対応を知る。 ◎水害を防ぐための取り組み（人）
展開 (30 分)	1. 小単元「火事からくらしを守る」の授業内容を思い出し、火事が起きた時の消防団の活動を思い出す。 発問： ・火事が起きた時、消防団はどのような活動をしていたでしょう？ ［・消防団は、火を消すために消火活動をしている。 ・水害のときに消防団はどんな活動をしているのだろう？］ 2. 火事以外にも水害時または水害に備えて消防団が活動していることを説明する。その後、水害時に使う土のう袋を見せて、何のために使う道具なのかを話し合う。 また、消防団へのインタビュー映像を見せ、水害時または水害に備えた消防団の活動を話し合う。	・火事が起きた時の消防団の活動を思い出させ、水害時の消防団の活動に繋げる。 ・水害時に消防団が活動していることを伝える。 ・土のう袋の現物を用意し、水防工法で使う道具や土のうの重さを体感させる。	○土のう袋、土が入った土のう袋 水害を防ぐために積み上げられる土のうがどのような道具なのかを学ぶ。
	主発問： ・水害が起きた時、消防団はどのような活動をしているのでしょう？ ［・水害が発生しそうな時は、水が溢れそうな場所をパトロールしている。 ・あふれた水を防ぐために、土のうを作っている。 ・水害発生に備えて、日頃から訓練をしている。 ・消防団は、普段は別な仕事をしながら、地域を守るために活躍している。 ・消防団は、男性だけではなく、女性も活躍している。 ・消防団の数はどのくらいいるのだろう？］ 3. 消防団員数の変遷クラフをみせて、消防団の数を調べる。 発問： ・重要な役割をしている消防団の数は増えているでしょうか？ ［・消防団の数は、年々減ってきている。 ・消防団の数が減ってきているということは、水害が起きた時に地域を守ってくれる人が少ないということになる。このため、地域の消防団の数を増やすことが必要である。 ・また、水害に備えて、自分の命は自分で守ることが重要。］	・消防団へのインタビュー映像を見せて、水害時の消防団の取り組みを知り、消防団は、水害時にも活動していることを気づかせる。 ・「水害時の消防団の活動資料」より、消防団の水害時の取り組みを確認する。 ・地域を守る消防団の数が減っているため、地域の消防団員数を増やす必要があること、自分の命は自分で守ることが重要だと気づかせる。	○消防団へのインタビュー映像 <3 分程度> 消防団が水害時にどのような活動をしているかを知る。 ○水害時の消防団の活動資料 消防団が水害時にどのような活動をしているかを確認する。 ○消防団員数の経年変化 消防団員数が、年々減ってきているため、地域の消防団員数を増やす必要があること、自分の命は自分で守ることに気づかせる。
終末 (10 分)	4. 学習内容の振り返り、授業のまとめ。 【授業のまとめ】 ・消防団は、火事だけではなく、水害からも私たちの生活を守ってくれている。 ・水害に備えて、水が溢れそうな場所をパトロールしたり、日頃から訓練を行っている。 ・消防団の数は年々減っているため、地域の消防団員数を増やす必要があること、自分の命は自分で守ることが重要。	・学習でわかったことをワークシートに記入させる。 ・児童からでた意見より、授業の内容をまとめる。	○ワークシート

板書例



授業で使える知恵袋

◎避難準備・高齢者等避難開始、避難勧告、避難指示（緊急）

大雨等の災害が予見される場合、状況に応じて自治体により発せられる。法律的には「避難命令」という言葉はなく、「避難のための立退きの勧告」《避難勧告》と「避難のための立退きの指示」《避難指示（緊急）》という規定しか存在しない。

【避難準備・高齢者等避難開始】

住民に対して避難準備を呼び掛けるとともに、高齢者や障がい者などの要配慮者に対して、早めの段階で避難行動を開始することを求める。

【避難勧告】

災害によって被害が予想される地域の住民に対して、避難を勧める。

【避難指示（緊急）】

住民に対し、避難勧告よりも強く避難を求めるもの。避難勧告よりも急を要する場合や人に被害が出る危険性が非常に高まった場合に発表され、ただちに避難行動を開始する必要がある。

◎消防団とは

消防団は、常勤の消防職員が勤務する消防署とは異なり、火災や大規模災害発生時に自宅や職場から現場へ駆けつけ、その地域での経験を活かした消火活動・救助活動を行う、非常勤特別職の地方公務員。全国に約 2,200 団あり、約 86 万人（約 72%が会社員）が所属しているが、近年は団員数が減少傾向にある（出展：総務省消防庁 HP）

◎函南町の消防団

函南町の消防団は 5 分団組織されている。団員数は 165 人（2017 年 4 月現在　出展：総務省消防庁 HP、函南町資料）

◎消防団と水害

消防団は水害が発生しそうな場合に、自治体と協力して、水防活動に従事します。具体的には、はん濫の可能性がる地点の見回りや、避難の呼びかけなどを行う。また、土のう等を用いた応急対応なども重要な活動となっている。

さらには水防月間や水防訓練その他の機会を通じて広く地域住民等に対し水防の重要性の周知や水防思想の高揚のための啓発，訓練及び危険箇所の巡回・点検等の活動を行っている。

◎導入における注意点
避難について・・・
・どこに避難したらよいか
・どこを通ればよいか

※避難については「授業で使える知恵袋」を参照

◎展開における注意点①

※教材にある「はんらん危険情報」や水位については「授業で使える知恵袋」を参照

◎展開における注意点②
避難について
・単独行動をしない
・情報を入手する
・避難する直前の周囲の状況や時間帯によっては避難行動（水平避難・垂直避難）が異なる場合がる
※水平避難・垂直避難については「授業で使える知恵袋」を参照

■水害は避難行動が重要であることを伝え、家族で共通認識をもつよう促す。

◎終末における注意点
①水害が予想される際の行動について正しく理解出来たか確認する
②避難について正しく理解出来たか確認する

■ワークシートにて、内容を習熟度合いをチェックする。

4時限目　私たちにもできる水がいへのそなえ

本時のねらい（目標）
大雨が降って「避難勧告」が出たら、ただちに避難を開始すること、どこから情報を得るかを学ぶ。水害から自分の命を守るために、ハザードマップを使って避難する場所を知ると共に、避難の行動を理解する。【自助を学ぶ】

※指導計画の［　］は、予想される児童の発言（児童に伝えたい発言）を示す。

流れ	発問計画	指導上のポイント	教材解説（◎は補助教材）
導入 （10 分）	3.「避難勧告」が出た時、避難するための情報を得る方法、どこに避難するかについて話し合う。 発問： 水害が起きるかもしれません。逃げるための情報をどうやって集めますか？また、避難勧告が出たら、どこへ逃げますか？ ※注意点※ 最近、狩野川で大きな水害が起きていないのは、狩野川台風規模の雨が降っていないこともあります。 このため、狩野川台風規模の雨が降った場合に備え、水害が起きた時の避難の行動を考える必要があることを児童に伝えて下さい。 ［・インターネットから、市のホームページを確認する。 ・テレビの気象情報を確認する。 ※テレビのｄボタンを押して、情報を得る。 ・消防団や市役所の広報車から放送される情報を聞く。 ・市で流される、防災無線の情報を聞く。］	・避難勧告が出た時にどこへ避難するのかを考えさせる。 ・水害から自分の命を守るために、「避難勧告」が出たら避難を始めることを伝える。 ※注意 授業時間を考慮し、ここでは「避難勧告」等の用語の解説は行わない。なお、用語の解説は、児童に配布する副読本に掲載している。 ・「狩野川台風規模の大雨が降った時に備えた行動」より、どこから避難勧告の情報を得られるかを伝える。	○狩野川台風規模の大雨が降った時に備えた行動 「避難勧告」の情報の流れ、情報の入手先を学ぶ。
展開 （25 分）	2. ハザードマップ（児童向け簡易版）より、自分達の家や避難所の場所を確認する。 発問： どこへ逃げたら良いと思いますか？ ［・ハザードマップは、川の水があふれた時に、水が浸かる場所を示した地図だとわかった。 ・大雨が降った時に、水が浸からない安全な場所を知るために使えることもわかった。 ・実際に避難するには、どのような行動をしたらよいのか？］	・ハザードマップ（児童向け簡易版）より自分達の家や避難所の場所を確認する。	○ハザードマップ（児童向け簡易版） ハザードマップとは何かを学ぶ。 ○水位を伝える模型 ハザードマップ（簡易版）で示す色が、児童のどの部位までくるのかを伝える ○自治体職員へのインタビュー 映像②（映像）＜1 分程度＞ 自治体が作成するハザードマップについて知る。
展開 （25 分）	3. 水害が起きそうな大雨が降り続き、避難勧告が発令されました。この状況で、自分や家族の命を守るための避難の行動をグループ毎に考える。 主発問： 自分や家族の命を守るために、水害に備えてあらかじめ何をしたらよいでしょう？ ［・避難勧告が出た時の避難行動の順番は、以下のとおりだとわかった。 ①事前に準備する ②情報を確認する ③避難する ・水害が起きそうなときは、川に近づいてはいけないことがわかった。 ・水害に備えるには、事前に準備することが大切。具体的には何をすると良いのかな？ 【事前の準備】 ・危険な場所や避難場所、避難ルートを確認しておく。 ・非常時の持ち出し品を準備する。 ・家族との連絡方法を決めておく。 ・避難のときに注意することを確認しておく。 ・雨や避難について情報を確認する方法を調べておく。 ・水害時に地域の人と協力することを考える。 ・学校や地域の避難訓練に参加する。 【情報の確認】 ・気象情報 ・避難情報の発令状況の確認（避難準備情報、避難勧告、避難指示） ・被害や事故の情報 【避難する】 ・服装や持ち物などの準備をする。 ・大人の指示に従って避難する。 ・周りの人と協力して行動する。］	・上記のハザードマップを思い出しながら、グループ毎に、キーワードカードを使って、避難の行動を並び替える。 ※川の様子を見に行っては行けないことを伝える。 ・その後、水害に備えるには、事前に準備することが大切であることを伝え、「事前に準備する」と「情報を確認する」の行動について、具体的に何をするのかをグループ毎に話し合う。	○グループワークで使用するキーワードカード 水害が起きそうな大雨が降った時に避難するまでの行動を考える。 ○災害に対するそなえ 非常時の持ち出し品や備蓄品について、内容を確認する。
終末 （10 分）	4. 学習内容の振り返り、授業のまとめ。 【授業のまとめ】 ・避難場所は、ハザードマップで確認できる。 ・水害が起こりそうな大雨が降った時に、自分や家族の命を守るために、事前の準備が大切。 ・事前の準備として、避難場所を確認したり、防災備蓄の内容を確認したりする。 ・事前の準備は、家族と話し合うことが大切。	・学習でわかったことをワークシートに記入させる。 ・児童から出た意見より、授業の内容をまとめる。 （・本単元の水害に関する部分のまとめを、映像を見ることで行う。）	○ワークシート ◎狩野川の水害対策のまとめ（映像） ＜1 分程度＞ 本単元で学んだ、内容をふりかえる。

板書例

授業で使える知恵袋

◎避難とは
避難には、避難準備・高齢者等避難開始、避難勧告、避難指示（緊急）がある。避難勧告が発令された場合は、既に災害が発生している可能性があるので、必ず、避難（水平避難か垂直避難は状況による）する必要がある。なお、避難する時間が夜間になる場合は、明るいうちに早めに避難所等へ避難することが必要である。

◎水平避難、垂直避難
「水平避難」とは、単純に今いる場所から他の場所に移動（避難）すること。土砂災害が予想されるときは、水平避難の方が有効。土砂災害は、線状に被害をもたらすことがほとんどであり、土砂が押し寄せそうな場所（線の内側）から出てしまえば被災しない。ただし、水平避難が困難な時は、「垂直避難」を選択する。「垂直避難」とは、今いるところよりも高いところに移動（避難）することである。例えば、建物の１階から２階や３階に移動（避難）することを垂直避難と呼ぶ。水害や津波の場合、水平避難と垂直避難のどちらが良いのかは状況による。屋外の状況や自分や家族の体力などを考慮して、より良いと思える方を選択する必要がある。

◎はんらん危険情報
洪水時において、予め定められた水位観測所において、災害発生の危険度に応じて設定された基準水位が設定されている。
【氾濫危険情報】
洪水により相当の家屋浸水等の被害を生ずる氾濫の起こる恐れがある水位（氾濫危険水位）に達した際に気象庁と国土交通省または都道府県の機関により出される。

※参考
【氾濫注意情報】
河川の氾濫の発生を注意する水位（氾濫注意水位）に達した際に気象庁と国土交通省または都道府県の機関により出される。
【氾濫警戒情報】
市町村からの避難準備情報などの避難情報が発表される目安となる水位（避難判断水位）に達した際に気象庁と国土交通省または都道府県の機関により出される。

【重要】避難について
避難について、レベルとしては「避難準備・高齢者等避難開始」、「避難勧告」、「避難指示（緊急）」の順に危険度が高まる。ただし強制力はない。
また、水害においては災害発生前の早めの判断が重要になる。
（例えば地震の場合は、発生時、すぐに避難することを意識するが、水害はすぐに避難に意識が向かない）

副読本

〇副読本

ふうすいがい
風水害から
くらしを守る

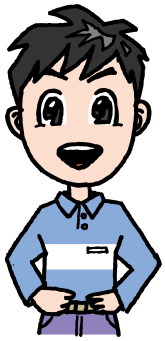
①狩野川と水害

②狩野川の水害をふせぐ工夫

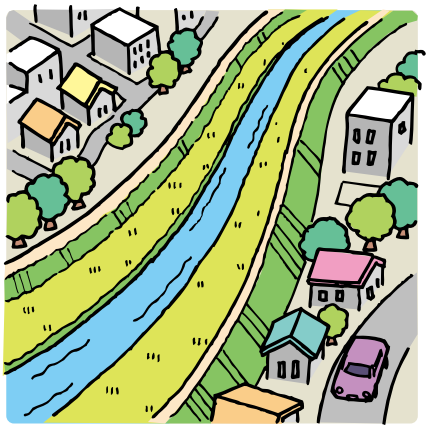
③水害から地域を守る

④わたしたちにもできる水害へのそなえ

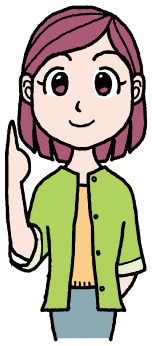
○どうして水害が起きるの？



狩野川では昔、大変な水害があったと聞いたことがあるよ。
大雨がふると、どうして水害が起きるんだろう？



大雨がふると大量の水が狩野川の上流から流れます。
図のように大量の水が堤防からあふれてしまうことで、わたしたちの住む町の中に水が流れて来てしまうのです。



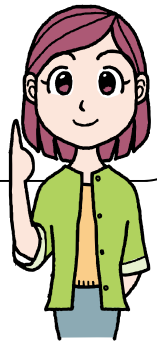
先生

○狩野川台風とは？

昭和 33 年 9 月 26 日、狩野川の周辺の町に大きな被害をもたらした台風のことです。台風によって水害が発生し、死者・行方不明 853 名という大きな被害をもたらしました。

狩野川台風による水害のはんい

わたしたちの町に大きな被害をもたらした狩野川台風。
わたしたちは狩野川台風の経験をわすれてはいけません。
狩野川台風の経験を、水害をふせぐための工夫に活かさなければならないのです。



先生

◆狩野川台風をわすれない

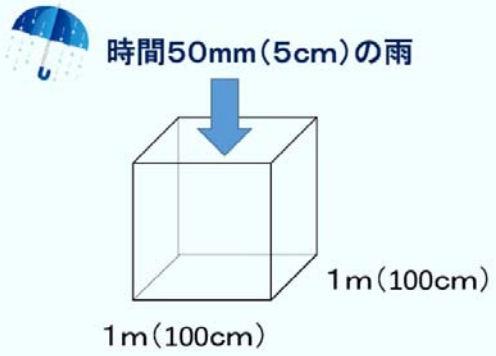
・狩野川台風の経験を活かすことで、『水害から身を守る』

○時間 50ｍｍの大雨

時間50mmの雨ってどのくらいなの？

「時間50mmの雨」とは、1時間に50mmの深さで雨がたまることを表します。
時間50mmの雨は「ひじょうにはげしい雨」で、たき のように雨がふるので、かさはまったく役に立たなくなります。

＜ 時間50mmの雨がふっている様子 ＞

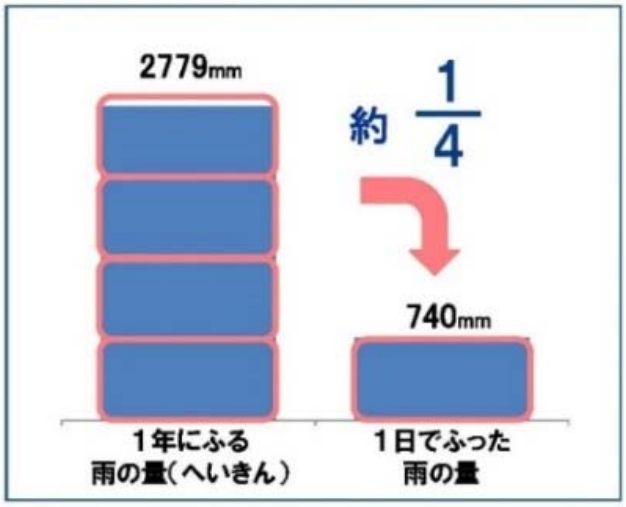


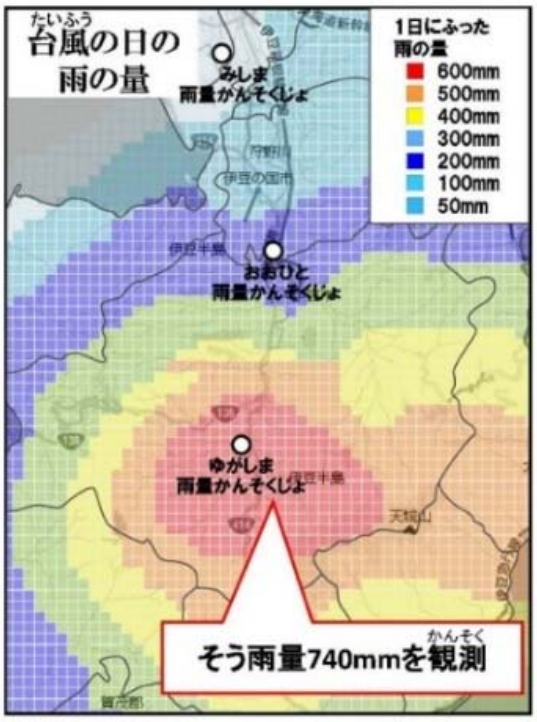
1時間で50mmの雨がふった場合、
1平方メートルの面積を持つ水そうに50リットルたまることになります。
牛にゅうパック50本分の量です。

○狩野川台風ってどんな台風？

狩野川台風ってどんな台風？

昭和33年9月21日に発生した狩野川台風（台風22号）は、中心気圧が877hPaの大型の台風で、9月26日の22時ころ、伊豆半島のすぐそばを通りました。





＜ 狩野川台風で1日にふった雨の量 ＞

国土交通省提供資料

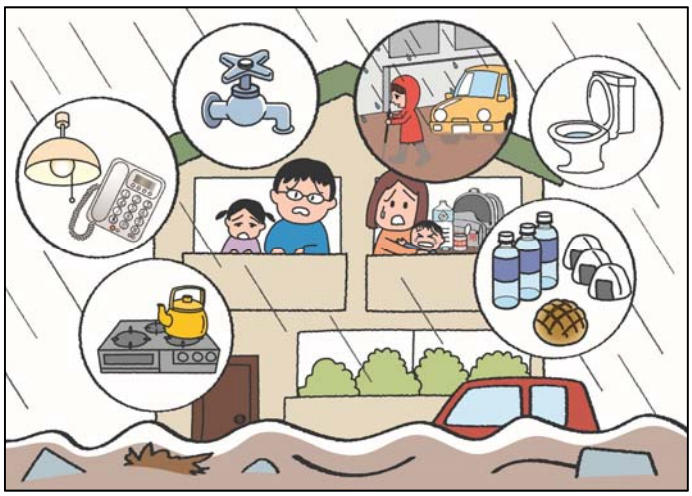
○狩野川台風の生活へのえいきょう

狩野川台風の生活へのえいきょう

ふねを使わないと
移動できない様子がわかる

伊豆の国市千歳橋にたまった流木など

○川から水があふれたとき、わたしたちの生活は？



○大雨がふると・・・

平成10年8月豪雨　水害の様子　（函南町　仁田地区）

いつもの様子

水害の時の様子

函南町提供資料

平成10年8月豪雨　水害の様子　（函南町　畑毛地区）

いつもの様子

水害の時の様子

函南町提供資料

○近年の大雨による水害

平成23年9月　台風15号　水害の様子（函南町　肥田地区）

いつもの様子

水害の時の様子

函南町提供資料

平成23年9月　台風15号　水害の様子（函南町　肥田地区）

いつもの様子

水害の時の様子

函南町提供資料

○大場川の水害

平成10年8月豪雨　水害の様子　（函南町　間宮地区）

いつもの様子

水害の時の様子

函南町提供資料

平成10年8月豪雨　水害の様子　（函南町　函南観音川排水機場）

いつもの様子

水害の時の様子

函南町提供資料

○大雨がふった時の川の様子

平成10年8月豪雨　水害の様子　（函南町　新川橋）

いつもの様子

水害の時の様子

函南町提供資料

平成10年8月　大雨がふった時の川の様子　（函南町　仁田橋）

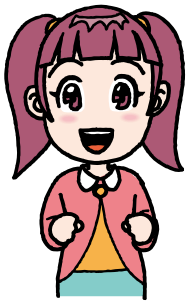
いつもの様子

大雨がふった時の様子

国土交通省提供資料

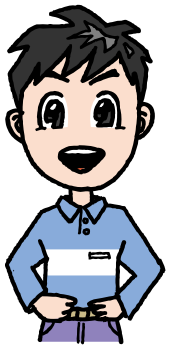
○狩野川の水害をふせぐ工夫

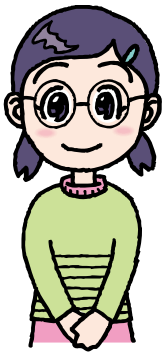
狩野川では、昭和 33 年の狩野川台風以来、大きな水害は発生していません。それはなぜなのでしょう？



だれかが水害をふせぐために、何かやってるんじゃないかしら？

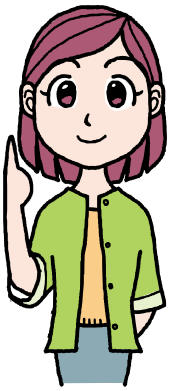
どんな事をしているんだろう？
想像できないね。





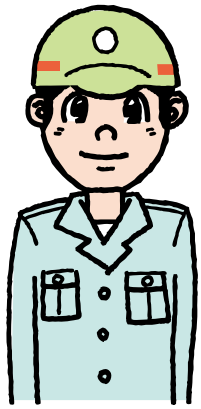
きっとわたしたちが知らないだけで、いろいろな人たちが狩野川の水害をふせぐために働いていると思うわ。

そうですね。狩野川では、水害をふせぐために、いろいろな仕事の人たちが、さまざまな工夫をしています。



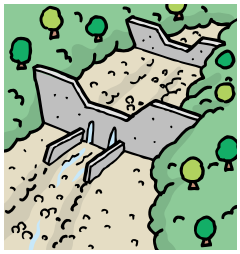
先生

◎狩野川を管理する国土交通省



わたしたち国土交通省は、狩野川で水害が起きないように、いろいろな取り組みをしています。

狩野川から水があふれないように放水路や堤防や排水機場、砂防ダムなどを作り、水害から地域を守る仕事をしています。



水害をふせぐための取り組み（工事）

放水路

新しい川を作って、洪水を安全に海へ流します。

砂防堰堤(砂防ダム)

山から土や砂が一度にたくさん流れないようせき止めています。

堤防

川の水があふれないように、土などをもり上げます。

排水機場

町などにたまった水を、川へはき出します。

◎狩野川放水路とは

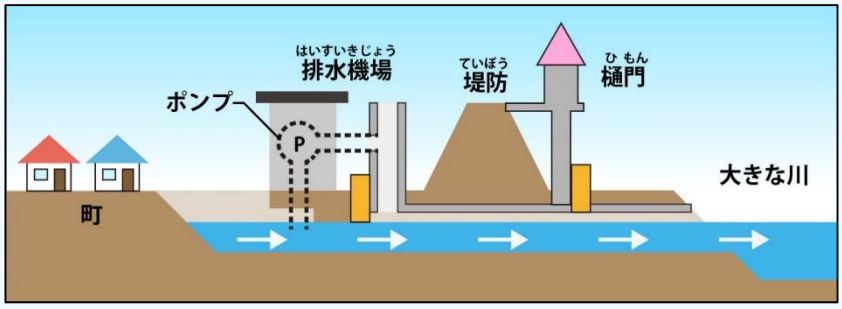
放水路とは、川の水を海に早くにがすための川の近道です。川の水がきゅうにふえたとき、ゲートをあけて海に水を流すことで、水があふれることをふせぎます。

狩野川放水路は、伊豆の国市韮山の近くで狩野川から分かれ、トンネルを通って沼津市口野で駿河湾にそそぐ、人の手で作られた長さ３キロメートルの水路です。

◎排水機場（はいすいきじょう）とは

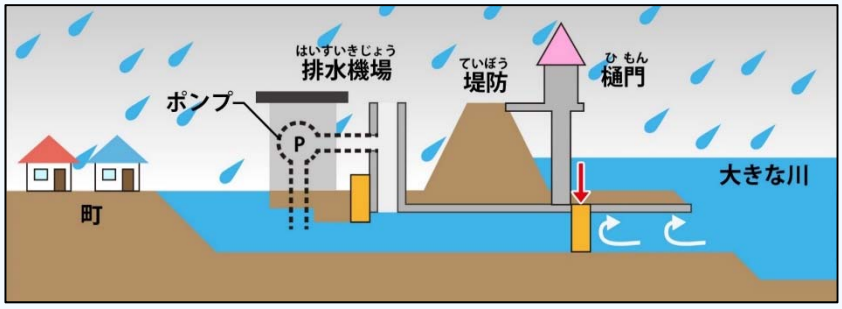
①ふだんのとき

排水機場（はいすいきじょう）は、小さな川や水路と大きな川の合流点にあります。ゲートがあり、ふだんはひらいています。



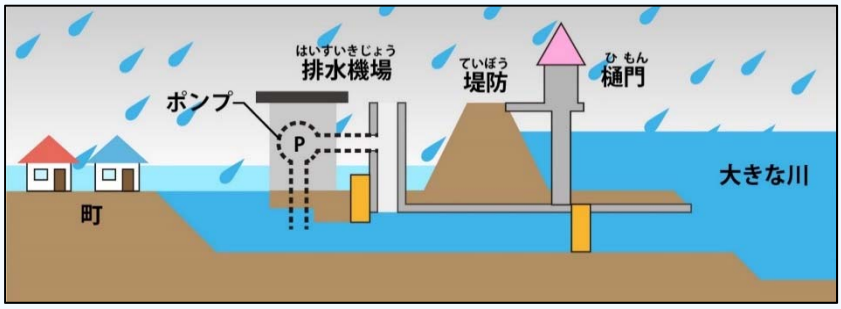
②大雨がふったとき

大雨などの時はゲートをしめ、大きな川からふえた水が逆流するのをふせぎます。



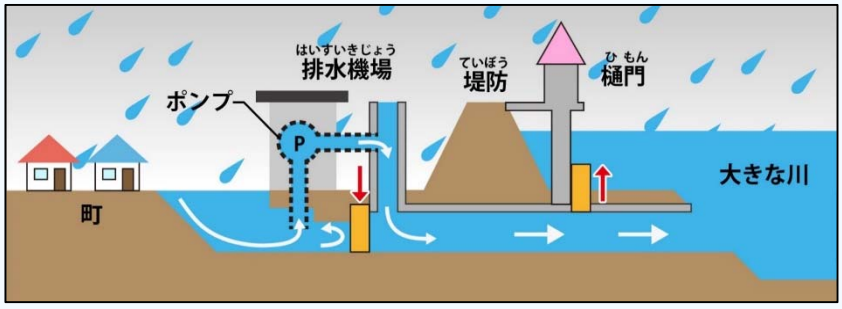
③大雨がふりつづいたら…

大雨がふりつづくと、小さな川や水路（すいろ）の水は行き場が無くなり、町や田畑にあふれてしまいます。

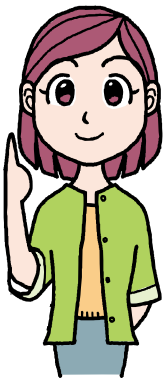


④川に水を流す

小さな川や水路の水が町にあふれないように、ポンプを使って大きな川に水をおしだします。

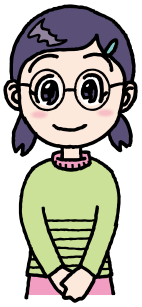


○水害から地域を守るために活やくする人たち



狩野川の水害をふせぐため、国土交通省や気象台や市や町の役所、消防署や消防団などのたくさんの人たちが活躍しています。

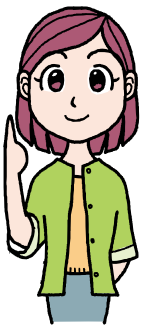
先生



消防団の人たちは、私たちが住んでいる地いきで、水害が発生しそうな時にも活やくするんだって。

消防団って火事が起きた時に消防署の人たちと一緒に火事を消すのが仕事じゃないの？
水害が発生しそうな時に消防団が出来る事ってあるのかな？

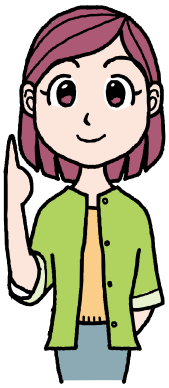
消防団の人たちは火事の時だけでなく、地域で水害が発生しそうな時には、川の水があふれていないか確認したり、ひなんを呼びかけたり、消防署や役所の人たちと一緒に水害が起きないよう活やくしています。



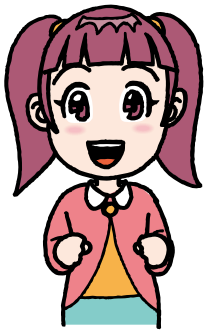
先生

○地域を守るための消防団

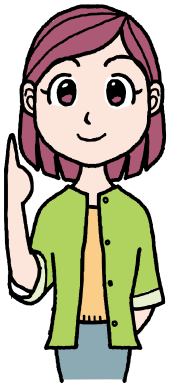
消防団の人たちはいつもは、別の仕事をしています。火事や水害が起きた時には、集合するようにしています。仕事が休みの時に、消火訓練や土のう作りの訓練をしているのです。



先生



わたしたちの地域を守るためにがんばっているのね。
とても大変な仕事だと思う。
どんな人たちが消防団に入っているのかな？



先生

消防団に入っている人たちは、会社につとめていたり、自分でお店をやっているひとなど色々な仕事をしている人たちです。
ただし最近は、消防団に入っている人が少なくなってきています。

◆消防団は水害でも活躍する

・消防団は地域を『水害から守る』ために活やくしている

水害をふせぐための取り組み（人）

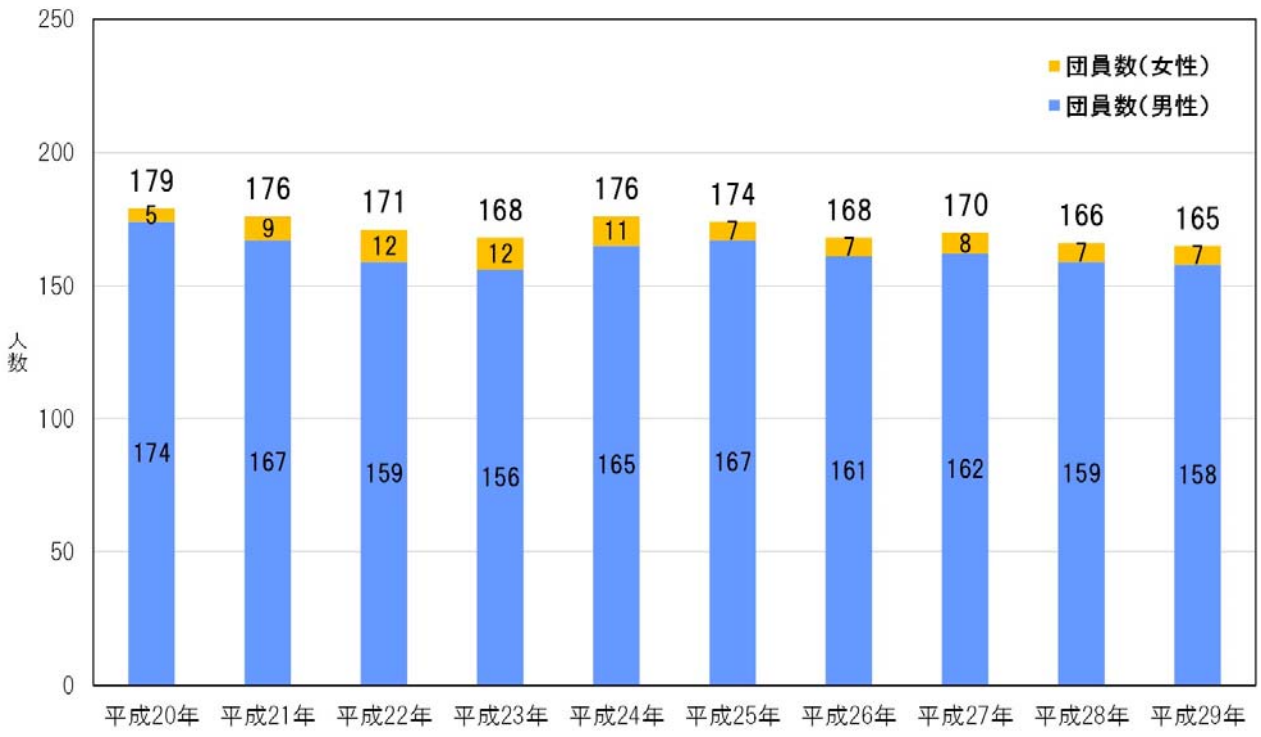
河川点検

堤防や放水路などに問題がないか調べます。

水防訓練

水害にそなえて、作業の手順を確認します。

函南町の消防団員数の変化



函南町資料

水害の時の消防団の活動

・消防団は、地域の安全を守るためにがんばっている。

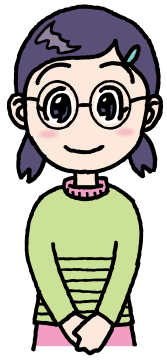
・大雨や洪水にそなえて…

水門の管理や点検をしている。

すいぼう訓練や小学校などで救護指導をしている。

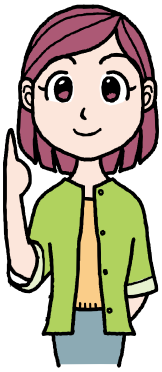
土のうを作って、積み上げる訓練をしている。

○狩野川の水害をふせぐためにわたしたちにできること



狩野川の水害をふせぐために、たくさんの人たちが関わっているのがわかったけど、
わたしたちにもできることがないかしら？

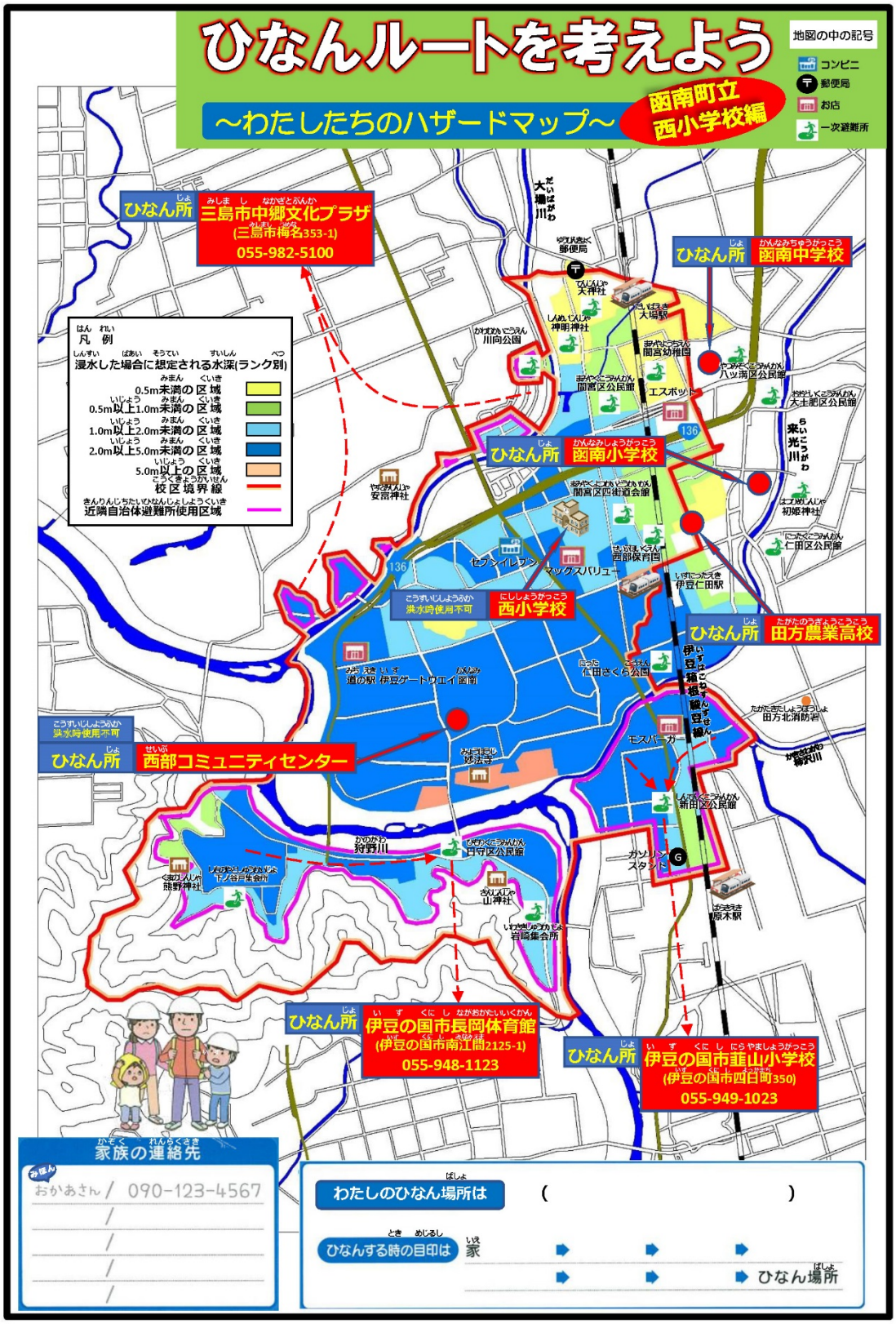
ぼくたちはまだ小学生だから、できることはないんじゃないかな？



先生

そんなことはありません。
大雨がふって、水害が発生しそうな時には、ひなんをしなければなりません。ひなんする道や、ひなん場所をふだんから知っておくことはとても大切なことです。
また、水害について学ぶことで、いざという時に落ち着いて行動することができます。

○確認しておこうハザードマップ



◆わたしたちにもできる水害へのそなえ

・ふだんの生活の中から気を付けることで『水害へのそなえ』はわたしたちでもできる

狩野川で大雨が発生!!

大雨で狩野川の水が増えてくると
ひなん勧告が出ます！

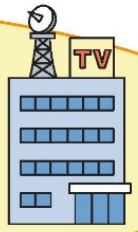
国土交通省
（沼津河川国道事務所）

気象庁
（静岡地方気象台）

狩野川の水があふれるおそれ
（はんらん危険情報など）

静岡県

市役所
町役場



放送局

国土交通省、気象庁の情報をもとに
ひなん勧告を出すよ

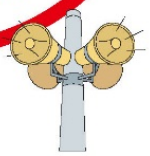
市役所や町役場
広報車

ぼうさいメールや
ホームページ

ぼうさいラジオ

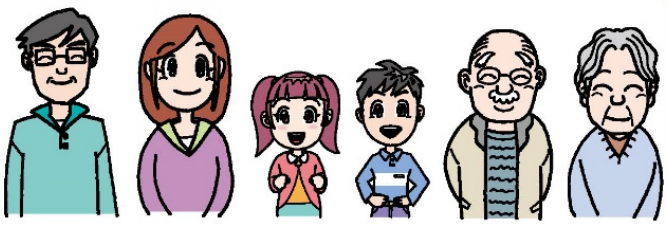
ひなん勧告
（情報の発信）

消防団



ひなんを
よびかける
ニュース
を放送

わたしたちに
ひなんの情報がとどく
（ひなん所へひなんする）



おぼえておこう!!

用語の説明

【ひなん準備・こうれい者等ひなん開始】

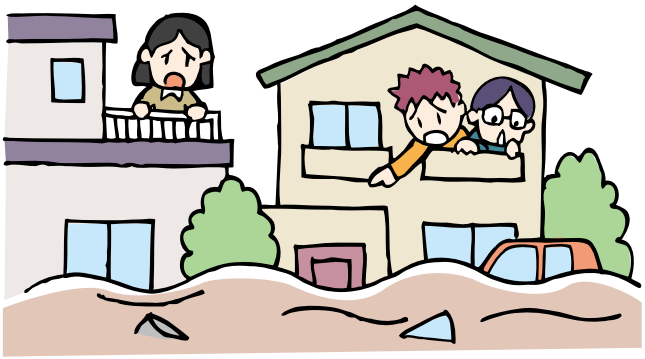
●お年寄りや体の不自由な人（要配慮者と言います）は、ひなんをはじめる必要があります。それ以外の人は、ひなんの準備をする必要があります。

【ひなん勧告】

●近くのひなん所など、
安全な場所へひなんを開始しましょう。

【ひなん指示（緊急）】

●今すぐにでも水害が発生する可能性があります。
ひなんしましょう。
ひなん所に行く道路に水が
浸かっている場合は、
なるべく頑丈な建物の２階
など、高い所へひなんしましょう。

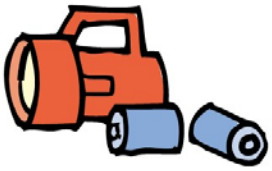


災害に対するそなえ

非常持ち出し品

災害のひがいによっては、ひなんをしなければならなくなることもあります。
ひなんする時に持ち出す、『非常持ち出し品』をじゅんびしておきましょう。

- □ 携帯用飲み水
- □ 食品（カップめん、かんづめ、ビスケット、チョコレートなど）
- □ きちょう品（通帳、印かん、お金など）
- □ 救急用品
- □ ヘルメット、防災ずきん
- □ 軍手（あつ手の手ぶくろ）
- □ 懐中電灯
- □ 衣類（セーター、ジャンパー類）、下着
- □ 毛布
- □ 携帯ラジオ、予備の電池
- □ マッチ、ろうそく
- □ つかいすてカイロ
- □ ウェットティッシュ
- □ 筆記用具（ノート、えんぴつなど）



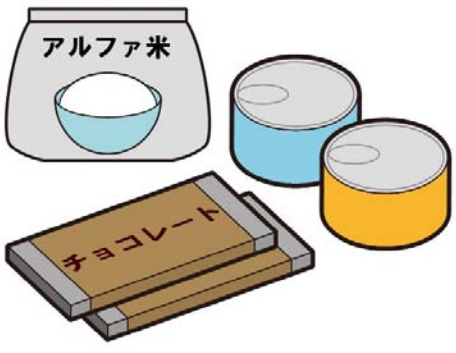
総務省消防庁資料

災害に対するそなえ

非常びちく品（1人・3日分）

災害が発生すると、普段どおりの生活ができなくなる事も考えられます。
ひなんしてからの生活をささえる、『非常びちく品』をそなえておきましょう。

- □ 飲み水　9リットル（3リットル×3日分）
- □ ごはん（アルファ米）　4～5食分
- □ ビスケット　1～2箱
- □ 板チョコ　2～3まい
- □ 乾パン　1～2かん
- □ かんづめ　2～3かん
- □ 下着　2～3組
- □ 衣類
- □ 携帯トイレ
- □ トイレットペーパー



総務省消防庁資料

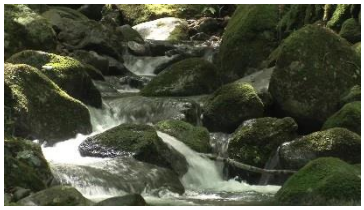
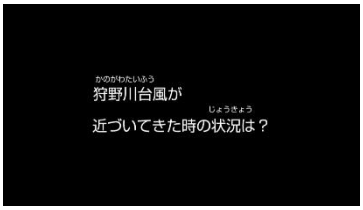
○ 情報を確認する

○ 高い所へにげる

○ 事前に準備する

○ ひなんする

映像原稿

映像	概要
1-1　狩野川　水のふるさと　【共通】	
	毎日、何気なく使っている水。その水源である狩野川が、天城山に発し、駿河湾に注がれるまでを解説している。
1-3　私たちの生活を支える狩野川　【共通】	
	狩野川の水が、生活水としてだけではなく、農業やレジャーなどにも利用されていることに触れ、豊かな資源を大切にすることを呼び掛ける。
2-1　狩野川台風　【共通】	
	未曽有の災害「狩野川台風」を、体験者の証言を交え、被害の大きさをくわしく解説し、教訓とするようまとめている。
2-2　狩野川台風の経験を活かそう　【共通】	
	悲しい記憶としてだけではなく、狩野川台風の経験を活かしていくことを知る事ができる、狩野川資料館についても紹介している。
2-3　語り部　藤池さんへのインタビュー　【共通】	
	「狩野川台風」襲来当時、函南町にお住まいで医療活動に従事していた方へのインタビュー映像。狩野川台風襲来時における病院内での活動、実施に使われた水防の知恵について紹介する。
3-1　みんなで守る狩野川　狩野川の防災対策　【函南町】	
	大雨が降り続くと、狩野川が溢れ、水害が発生することも予想される。狩野川台風以降、水害を防ぐために様々な取り組みをしていることを説明している。

映像・画像	内容
3-2　水害を防ぐために 中流域の取り組み　【函南町】	
	水害を防ぐための取り組み、堤防や狩野川放水路、砂防堰堤（砂防ダム）や排水機場などについて、流域に分けて説明している。
3-4　消防団とは　【函南町】	
	水害に備えて身近な消防団が関わっていることを伝える。消防団員へのインタビューの他、消防団員の推移（団員の減少）などを説明している。
3-5　知ってほしい　消防団のこと　【函南町】	
	消防団員の消防団活動への想いや、普段の訓練の話などを知る。
3-6　狩野川の防災とは　【共通】	
	防災対策とは、決して自分たちから遠いことではなく、様々な取り組みや、日頃からの心がけ、事前の準備が重要であることを伝える。
3-7　函南町の取り組み(1)函南町の防災対策　【函南町】	
	防災に対する函南町の取り組み（公助）をインタビューで紹介する。
3-8　函南町の取り組み(2)ハザードマップについて　【函南町】	
	防災に対する函南町の取り組み（公助）のうち、ハザードマップについてインタビューで紹介する。

映像・画像	内容
4-1　流れる水の勢い　【共通】	
	水があふれた道路は危険であることを伝える。
4-5　来光川の氾濫　【共通】	
	過去の来光川の氾濫の様子を当時の映像を使って紹介し、今後同じような被害が起きないとは言えないことを伝える。
4-6　水のおそろしさ　【共通】	
	時間 50㎜ の雨の様子をイラストと映像で紹介し、近年発生した水害の映像とともに降雨により大水害が起きる可能性があることを伝える。

ワークシート

ワークシート
①狩野川と水害

教員用赤書き版

4年　　組
名前（　　）

■　川から水があふれるとわたしたちの生活はどうなると思いますか？

□　学習の予想

評価/観点：（思考・判断・表現）
授業の内容を踏まえ、水害が起きると自分たちの生活に与える影響を想像し、表現出来ている。

1．大雨がふると川の様子はどう変わるでしょうか？

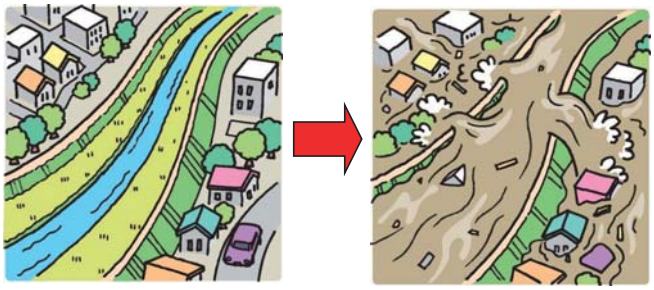
◎この２枚の写真をくらべた時に、どのようなちがいがありますか？

（大雨がふって、川の水位が上がっている）

◎このイラストはどのような天気を表現しているでしょうか？

（傘をさしても体が濡れてしまうほどの大雨）

2．川の水があふれたらわたしたちの生活にどのようなえいきょうがあるでしょうか？



◎狩野川がイラストのようになった場合、わたしたちの生活はどうなるでしょう？

（家や学校が水浸しになる・避難する必要がある）

3．水害の記憶

◎この写真は何を写した写真でしょう？

（狩野川台風の被害）

◎この写真を見てどう思いましたか？

（水害は恐ろしい・狩野川台風を忘れてはいけない）

■今日の授業で学んだ「水害」を通して、川から水があふれるとわたしたちの生活はどうなると思いますか？　【キーワード：水害、生活、狩野川台風】

□まとめ

□ふりかえり

ワークシート
①狩野川と水害

４年　　組
名前（　　）

■

□　学習の予想

１．大雨がふると川の様子はどう変わるでしょうか？

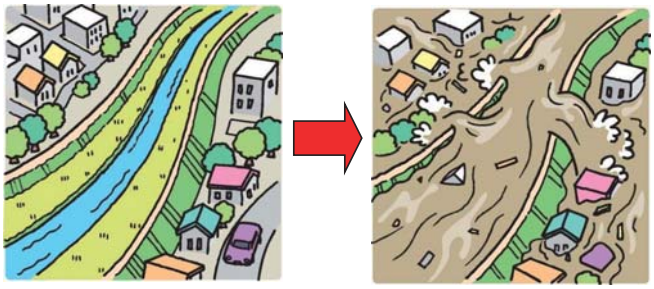
◎この２枚の写真をくらべた時に、どのようなちがいがありますか？

（　　）

◎このイラストはどのような天気を表現しているでしょうか？

（　　）

２．川の水があふれたらわたしたちの生活にどのようなえいきょうがあるでしょうか？



◎狩野川がイラストのようになった場合、わたしたちの生活はどうなるでしょう？

（　　）

３．水害の記憶

◎この写真は何を写した写真でしょう？

（　　）

◎この写真を見てどう思いましたか？

（　　）

■今日の授業で学んだ「水害」を通して、川から水があふれるとわたしたちの生活はどうなると思いますか？　　【キーワード：水害、生活、狩野川台風】

□まとめ

□ふりかえり

ワークシート
②狩野川の水害をふせぐ工夫

教員用赤書き版

4年　　組
名前（　　）

■ 水害をふせぐために、どのような取り組みが行われていると思いますか？

□ 学習の予想

評価/観点：（知識・理解）
水害から私たちの生活を守るための取り組みについて理解している。

1．水害をふせぐ工夫について記入しましょう。

A

（狩野川放水路）

B

（堤防）

C

（砂防堰堤（砂防ダム））

D

（排水機場（排水ポンプ））

■今日の授業で学んだ「水害をふせぐ取り組み」を通して、水害をふせぐためにどのような取り組みが行われていると思いますか？　【キーワード：ふせぐ、工夫】

□まとめ

□ふりかえり

ワークシート
②狩野川の水害をふせぐ工夫

４年　　組
名前（　　）

■

□　学習の予想

1．水害をふせぐ工夫について記入しましょう。

A

（　　）

B

（　　）

C

（　　）

D

（　　）

■今日の授業で学んだ「水害をふせぐ取り組み」を通して、水害をふせぐためにどのような取り組みが行われていると思いますか？　　【キーワード：ふせぐ、工夫】

□まとめ

□ふりかえり

ワークシート
③水害から地域を守る

教員用赤書き版

4年　　組
名前（　　）

■ 水害からくらしを守るために、地域の人たちはどのような活動をしているのでしょう？

□ 学習の予想

1．下の図は水害をふせぐ取り組みです。何を行っているところでしょうか？

（川の水位を確認する作業（パトロール））

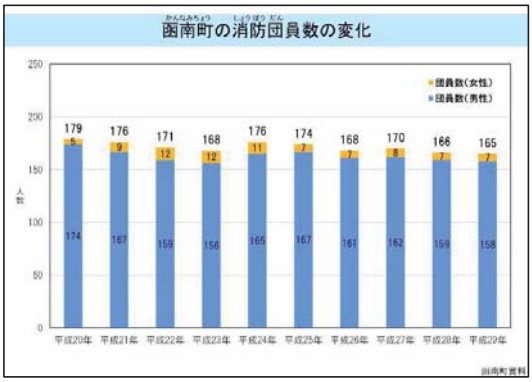
2．消防団について、3枚の写真はそれぞれどのような活動でしょうか？

（放水訓練・訓練）

（土のう積み訓練　水防訓練）

（避難の呼びかけ）

3．消防団の活動について考えましょう。



◎グラフから読み取れることは何でしょう？

（消防団の人数は少しずつへってきている）

◎消防団の人たちのインタビューからわかったことは何でしょう？

（消防団の人たちは水害から地域を守っている
消防団の人たちは、他の仕事をしながら消防団の活動をしている）

■今日の授業で学んだ「水害から地域を守る」を通して、消防団が水害をふせぐためにどのような取り組みが行われていると思いますか？　【キーワード：消防団、訓練　】

□まとめ

□ふりかえり

ワークシート
③水害から地域を守る

4年　　組
名前（　　）

■

□　学習の予想

1．下の図は水害をふせぐ取り組みです。何を行っているところでしょうか？

（　　）

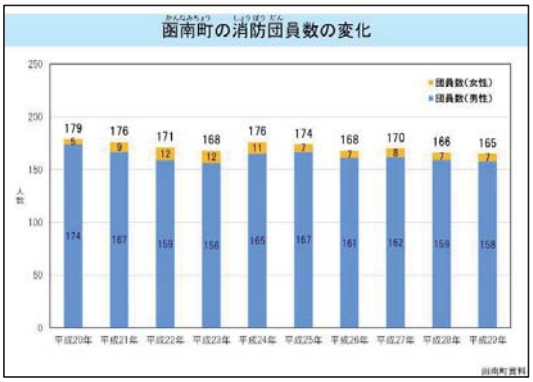
2．消防団について、3枚の写真はそれぞれどのような活動でしょうか？

（　　）

（　　）

（　　）

3．消防団の活動について考えましょう。



◎グラフから読み取れることは何でしょう？

（　　）

◎消防団の人たちのインタビューからわかったことは何でしょう？

（　　）

■今日の授業で学んだ「水害から地域を守る」を通して、消防団が水害をふせぐためにどのような取り組みが行われていると思いますか？　　【キーワード：消防団、訓練　】

□まとめ

□ふりかえり

ワークシート
④わたしたちにもできる水害（すいがい）へのそなえ

教員用赤書き版

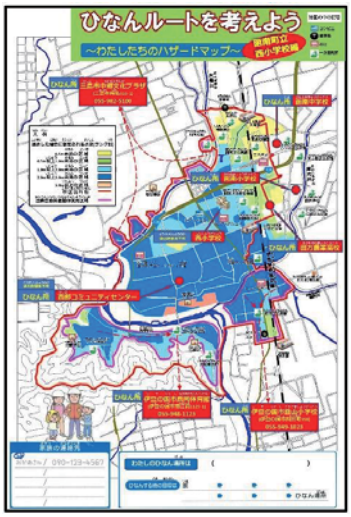
４年　　組

名前（　　）

■　自分や家族の命を守るために、水害（すいがい）にそなえて、あらかじめ何をしたらよいと思いますか？

□　学習の予想

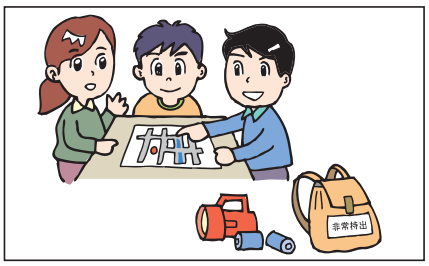
1．下の地図の名前は何でしょうか？またどのような使い方をする地図でしょうか？



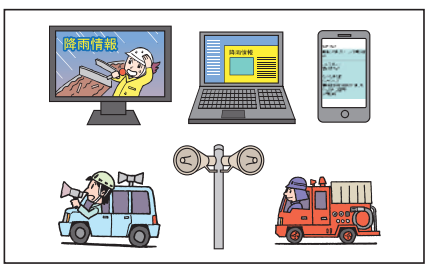
名前：ハザードマップ

使い方:川の水があふれる予想やひなんの道を確認する

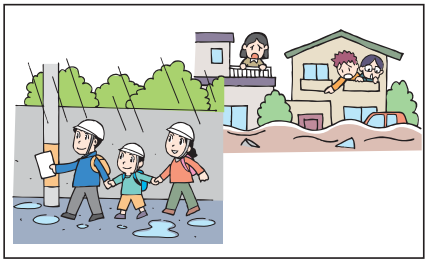
2．水害（すいがい）が起きた場合のイラストです。それぞれ何を行っているところでしょうか？



じぜんに準備する



情報を確認する



ひなんする

■今日の授業（じゅぎょう）で学んだ「水害（すいがい）へのそなえ」を通して、自分や家族の命を守るために、水害（すいがい）にそなえてあらかじめ何をしたらよいと思いますか？　【キーワード：水害（すいがい）、そなえ　】

□まとめ

□ふりかえり

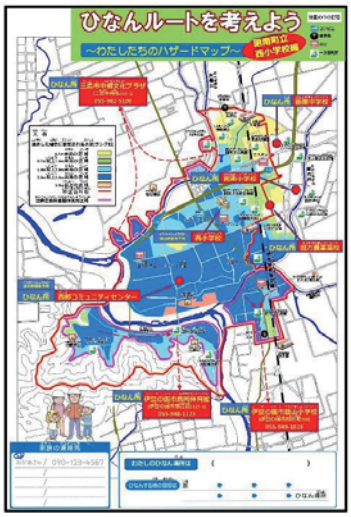
ワークシート
④わたしたちにもできる水害（すいがい）へのそなえ

４年　　組
名前（　　）

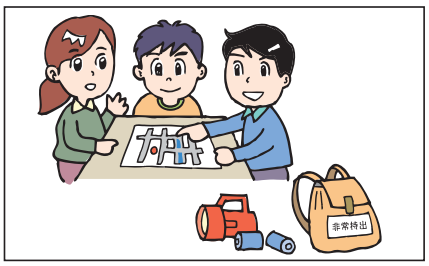
■

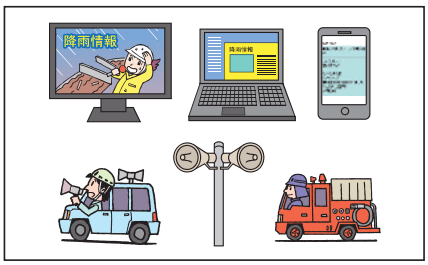
□　学習の予想

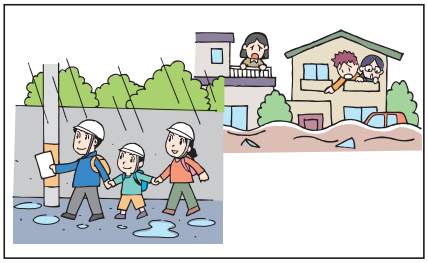
1．下の地図の名前は何でしょうか？またどのような使い方をする地図でしょうか？



2．水害（すいがい）が起きた場合のイラストです。それぞれ何を行っているところでしょうか？







■今日の授業（じゅぎょう）で学んだ「水害（すいがい）へのそなえ」を通して、自分や家族の命を守るために、水害（すいがい）にそなえてあらかじめ何をしたらよいと思いますか？　　【キーワード：水害（すいがい）、そなえ　】

□まとめ

□ふりかえり

単元テスト

社会

4 くらしを守る
1 風水害からくらしを守る

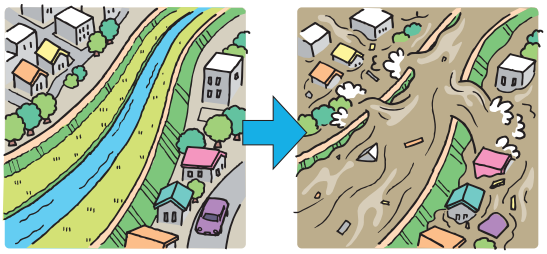
名　　組　　番

前

知識・理解	/45
観察・資料活用・技能	/25
思考・判断・表現	/30
	点

【1】図をみて答えましょう。
（知識・理解）水害について理解しているか（各5点）

1．川の水があふれると、わたしたちの生活はどのようになりますか？下のことばから3つ選んで、○をつけましょう。



- ○家が水びたしになる　・川がきれいになる
- ○道が使えなくなる　・川の魚がふえる
- ○ひなんしなければならない

（知識・理解）水害について理解しているか（各5点）

2．水害が起きる理由について正しいものを選び、□でかこみましょう。

・大雨で川の水が｛ふえる・へる｝と｛堤防・山・田畑｝から水があふれて水害が発生することがある。

【2】水害をふせぐ工夫について図と関係ある文を選び、― で結びましょう。

- 堤防
- 川のパトロール
- 砂防堰堤
- 狩野川放水路
- 水防訓練

（思考・判断・表現）防災対策の取り組みについて考えることができるか（各5点）

【3】消防団について、あてはまることばを□から選び、記号で書き入れましょう。

・消防団は地域の（ア）や（イ）に出動する。
・消防団の人たちはふだん（エ）をしている。
・消防団の人数は（カ）いる。

（知識・理解）消防団について理解しているか（各5点）

ア　水害　　イ　火事　　ウ　イベント
エ　別の仕事　　オ　ふえて
カ　へって　　キ　遊んで

【4】水害のそなえについて、あてはまることばを下から選んで書き入れましょう。

・わたしたちの地域は（　水害　）が発生する可能性がある。
（観察・資料活用・技能）防災対策について理解し、資料画像から読み取る事ができるか（各5点）
・（　ハザードマップ　）は、自分の家や学校が被害を受ける可能性があることを前もって確認できる。
・大雨がふった時には（　ひなん　）することを考えなければならない。

・水をせき止める（　土のう　）袋

・水害にそなえた（　水防　）訓練

- ハザードマップ　・水害　・防災
- 土のう　・買い物　・ひなん　・消火
- 観光マップ　・水防

【5】水害が発生しそうな時の正しい行動に3つ○をつけましょう。
（思考・判断・表現）避難行動について考え、判断ができるか（各5点）

（○）事前の準備をする
（　）川の近くに行く
（○）情報を確認する
（○）ひなんする

授業のふりかえり

【１】風水害からくらしを守るの授業でわかったこと、きづいたことを書きましょう。

社会

4 くらしを守る
1 風水害からくらしを守る

名　　組　　番

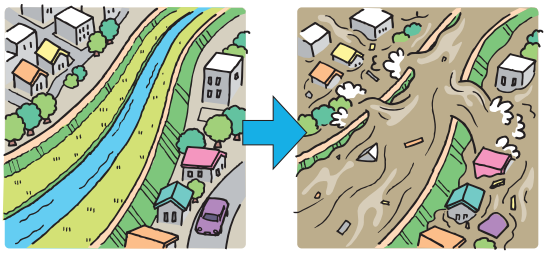
前

知識・理解	/45
観察・資料活用・技能	/25
思考・判断・表現	/30

点

【1】図をみて答えましょう。

1．川の水があふれると、わたしたちの生活はどのようになりますか？下のことばから３つ選んで、○をつけましょう。



・家が水びたしになる　・川がきれいになる
・道が使えなくなる　・川の魚がふえる
・ひなんしなければならない

2．水害が起きる理由について正しいものを選び、□でかこみましょう。

・大雨で川の水が｛ふえる・へる｝と｛堤防・山・田畑｝から水があふれて水害が発生すことがある。

【2】水害をふせぐ工夫について図と関係ある文を選び、― で結びましょう。

・堤防
・川のパトロール

・砂防堰堤
・狩野川放水路

・水防訓練

【3】消防団について、あてはまることばを□から選び、記号で書き入れましょう。

・消防団は地域の（　）や（　）に出動する。
・消防団の人たちはふだん（　）をしている。
・消防団の人数は（　）いる。

ア　水害　　イ　火事　　ウ　イベント
エ　別の仕事　　オ　ふえて
カ　へって　　キ　遊んで

【4】水害のそなえについて、あてはまることばを下から選んで書き入れましょう。

・わたしたちの地域は（　　）が発生する可能性がある。
・（　　）は、自分の家や学校が被害を受ける可能性があることを前もって確認できる。
・大雨がふった時には（　　）することを考えなければならない。

・水をせき止める（　　）袋

・水害にそなえた（　　）訓練

・ハザードマップ　・水害　・防災
・土のう　・買い物　・ひなん　・消火
・観光マップ　・水防

【5】水害が発生しそうな時の正しい行動に３つ○をつけましょう。

（　）事前の準備をする
（　）川の近くに行く
（　）情報を確認する
（　）ひなんする

授業のふりかえり

【１】風水害からくらしを守るの授業でわかったこと、きづいたことを書きましょう。